

1 学年 1 学年

2 教材 書道Ⅰ

3 単元名 「漢字の書の学習」 1 楷書の学習

4 単元目標

小中学校の国語か書写からの移行を踏まえ、今日の日常生活中で正書体として位置づけられている楷書の学習により、芸術科書道の導入として多様な表現を鑑賞する能力と臨書をとおして獲得した技法により感性に基づく書美の表現への意欲を喚起する。

5 単元指導計画

- ①さまざまな楷書
- ②厳正と温雅 九成宮醴泉銘と孔子廟銅碑の鑑賞と臨書
- ③重厚と軽快 顔氏家廟碑と雁塔聖教序の鑑賞と臨書
- ④方勢と円勢 牛橛造像記と鄭羲下碑の鑑賞と臨書
- ⑤小字の書の鑑賞と臨書

6 単元の評価計画（評価規準）

書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書表現の諸要素を受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。

7 本時の目標

- ・毛筆による書表現の多様性を理解し、これを積極的に鑑賞する態度を身につける。
- ・書の古典の種類を知り、「法帖」の学習題材としての特質と意義を理解する。

8 本時の学習展開

段階 (配当時間)	学習内容 学習活動	学習活動の支援・指導上の留意点 観点別評価
導入 (10分)	教科書P20を開き、真跡と拓本について学ぶ。	真跡と拓本（全拓と剪装本）、採拓などの写真やDVD等を用い、具体的な理解を促す。 時間に余裕があれば、実際に採拓を行うことも望ましい。
展開 (30分)	指導者の説明を聞いた上で、教科書P20～21、①～⑥の作品について、A「最も美しい作品と感じる作品」を一つ選ぶ。また、B「最も好きな作品を」一つ選び、その理由、その作品が持つ雰囲気、魅力をレポートに書く。	書写で学んできた「手本」とは違い、「絶対的な書美」というものは存在せず、書き手や時代によって様々な表現があることを説明する。 具体的な書風の違いは説明せず、生徒の感性を重視したい。

<p>展開 (30分)</p>	<p>一人一人の生徒が、選んだA, Bの作品とレポートに記した内容を発表する。</p> <p>全員の発表が終わったところで、他の生徒の意見をもとに、①～⑥の古典作品について改めて考察する。 各作品の魅力を話し合う。</p> <p>「美しさ」にも人により評価が分かれること、「好きな作品」も評価が分かれることを知り、自己の感性について客観的に考察する。</p> <p>他者の意見を参考に、再度①～⑥の作品をよく観察し、「最も好きな作品」を選びなおす。</p> <p>「最も好きな作品とその魅力」について、レポートにまとめる。 自分の個性についても、書く。</p>	<p>①～⑥の作品名を板書し、A, Bごとに生徒の発表内容を整理して板書する。それぞれA, Bの合計数も数える。</p> <p>各作品の魅力について、適宜ヒントを与えながら、まとめる。</p> <p>A, Bの古典ごとの獲得数を比較した上で、「美」と「個性」について考えさせる。</p> <p>字形、線質、肥瘦、抑揚など、観察すべきポイントを示す。</p> <p>他者の意見をふまえ、前回よりも深く考察できるよう促す。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>レポートを提出する。</p>	<p>作品の比較、鑑賞をとおして、美と個性についてどのように感じたかを指名して発表させる。</p>